

書 評

(株)白亜書房発行

高多 明 著

地球資源戦略ノート

評者 齋 藤 雄 志*

Takeshi Saito

我が国では、一般の資源問題に関する著作は非常に少ない。エネルギー問題に関しては、かつてエネルギー危機が叫ばれていた頃には多数の一般書とともに、多少の数の専門書も刊行されていたが、より広い資源問題となるとほとんど見当たらない。著者は元資源環境技術総合研究所（旧公害資源研究所）所長であり、本書は専門家による資源問題の大学向けテキストであるといつてよい。この意味で貴重なものと言えよう。表題は時代を反映して「地球資源戦略ノート」となっているが、資源開発に関する基礎知識を説明したものである。

読者の便宜のため、各章の表題をあげてみるとつぎのようになる。

1. 地球資源の開発
2. 鉱物元素の賦存状況
3. 鉱物元素資源の特徴と評価
4. 元素資源の生産状況
5. 資源量の確認と開発
6. 炭素系資源
7. 原材料資源
8. 水資源
9. 資源戦略ノート

1. では、資源開発に関わるものとして、資源の種類、資源の経済学的価値、需要と供給による価格決定の問題が論じられている。2. は主に各種資源の賦存の状況を解説したものであるが、ローレンツ曲線、ジニ係数などを用いて賦存の偏りをわかりやすく数量的に表現している。3. は資源の用途と資源価格の特殊性にウエイトをおいて書いている。4. 以下はその表

題よりおおよその様子はつかめる内容となっている。

この本の特徴としては、第1に大変分りやすいことをあげることができる。図表が充分配置されていて資源に関する各種統計が簡潔に示されている。数量的に現状を理解するのに大変向いている。需要と供給による価格の決定など経済学に関する議論も展開されているが、内容は入門的なものである。おそらく工学部の学生を対象とした講義を前提にまとめられてるからであろう。第2に教科書であるため当然かもしれないが、資源問題に関する基本的用語、概念が適切に記載されている。資源問題に関する入門書としては適切な内容となっている。第3に鉱物資源、炭素資源、原材料資源（石灰石など）、水資源など各種資源をまんべんなく説明している。そのため逆に部分的にはやや説明不足の感もあるが、限られた紙数（講義ならば限られた時間）という制限のなかではやむおえまい。本書は工学的にもあまり理論的に難しい点は避けており、わかりやすい教科書となっている。とはいえ、エネルギーや資源の問題にかかわっている専門家であってもここに書かれていることを100%知っているわけではない。その意味ではこの分野に関係する人にとってもよい入門書である。評者としては、本書に対応して、ENERGY POLICY, RESOURCE POLICY, THE ENERGY JOURNAL などの雑誌のような内容を持つ、経済学者によるこの種の本が我が国に1冊くらいはあってもよいような気がする。

著者は同じ出版社より「開発システム工学ノート」も出版しており、併せて参照するとよい。

*専修大学経営学部教授

〒 214 川崎市多摩区東三田 2-1-1